

海人(漁業者)が作ったNPO法人

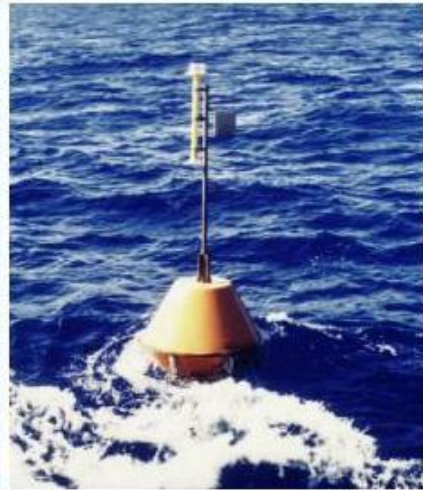
—サンゴ礁の里海をめざして—



柳田 一平
沖縄市漁業協同組合
NPO法人
INO(イノー)代表

1. 地域及び漁業の概要

- 沖縄市漁協：正組合員48名、准組合員54名、計102名
- パヤオ漁業を中心に、ソデイカ漁業、潜水器漁業などが営まれている。
- 沿岸の潜水器漁業、小型の釣漁業・網漁業が中心だった。
- →開発行為等による環境悪化、乱獲で沿岸の漁業資源が減少
- →沖合のパヤオ漁業、ソデイカ漁業へ転換



← 沖縄の漁協
設置の様々な
パヤオ(浮魚礁)



縦型パヤオ

パヤオの対象魚



キハダ



シイラ



カツオ



カマスサワラ



クロカジキ

沖縄のソデイカ漁業



2. 組織と運営:NPO法人INO

- 潜水器漁業者を中心に、海洋コンサルタント、学識経験者、カメラマン等で構成
- 運営資金・活動資金は、海邦銀行、琉球銀行、沖縄県サンゴ礁保全協議会などからの助成金

NPO法人INOの構成



イノーとは：沖側のサンゴ礁と岸の間の礁池

イノーは沖縄の里海：地域の人々が密接に関わり、
環境保全と資源管理に取り組む地先の海



石垣島白保のイノー

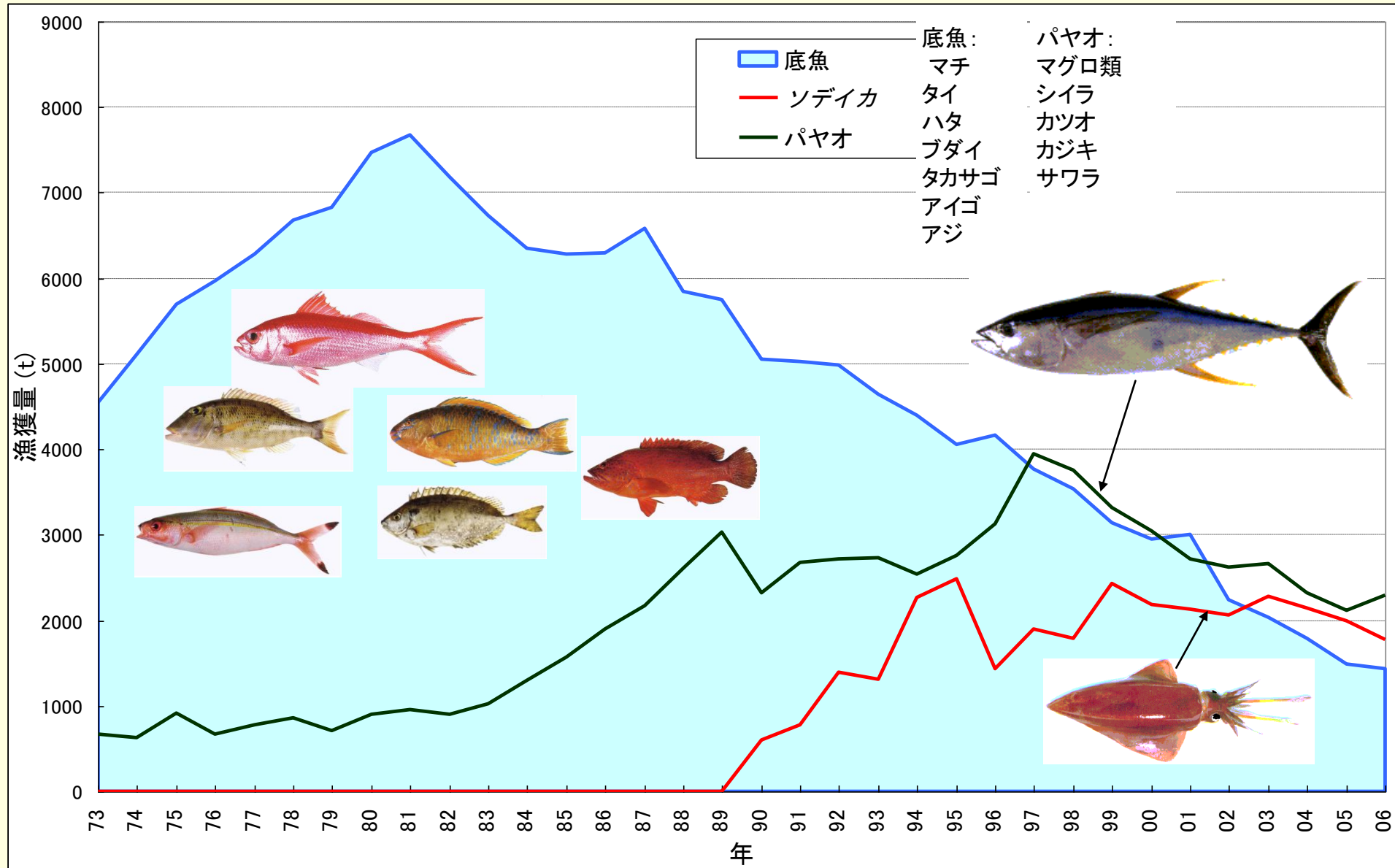
3. 課題選定の動機

- 魚の小型化・資源の減少, 天然モズクも激減
- 漁場環境も埋立や陸域からの汚染で悪化
- 海の濁りもひどく、潜水器漁業、サンゴ養殖、モズク養殖などに悪影響
- → 漁業者、海洋関係者等で
NPO法人立ち上げ
→ 環境保全、資源管理
- 海を休ませるため、
魚を獲ること以外の仕事で
代替収入源を確保



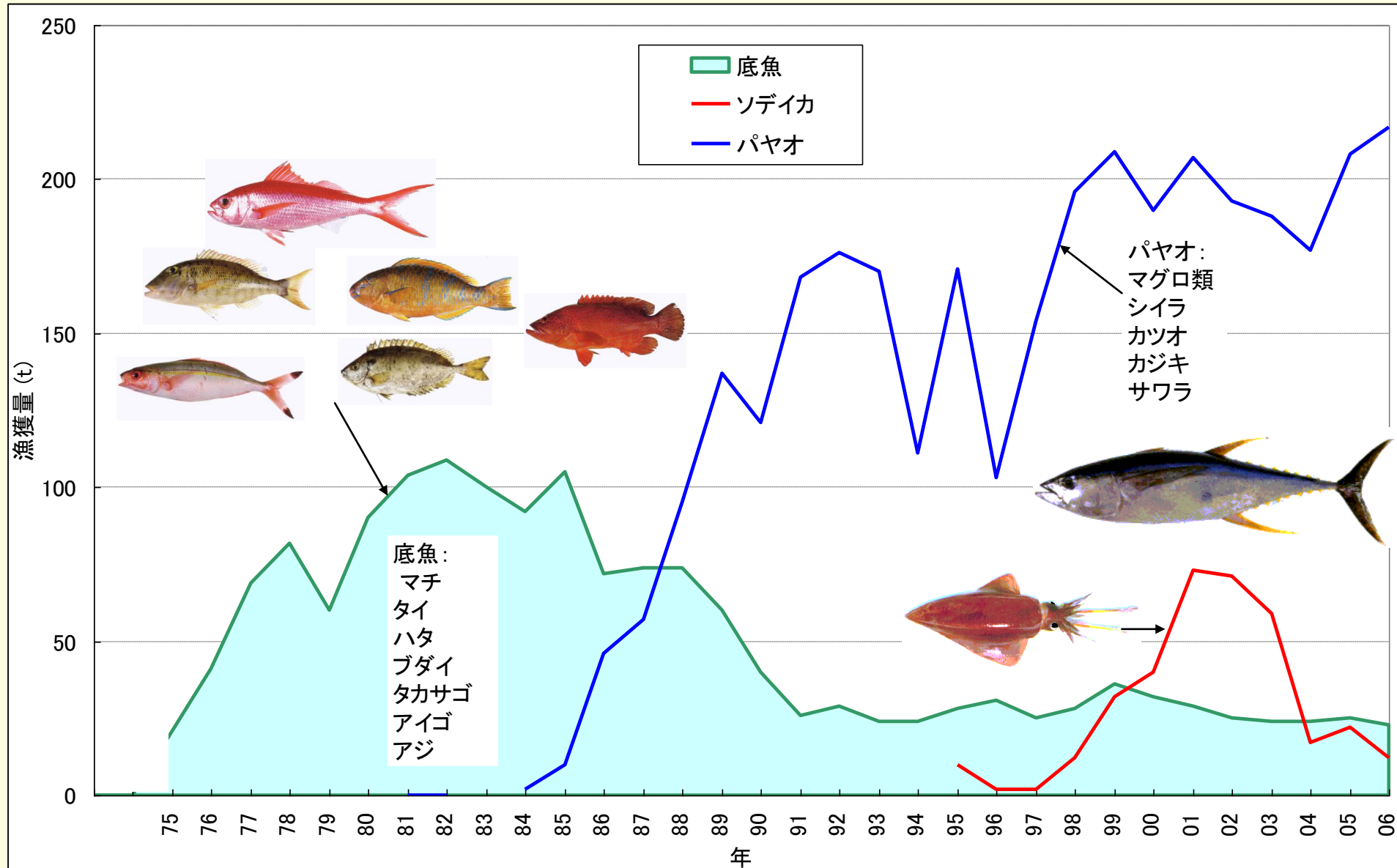
沿岸資源の減少

沖縄県全体

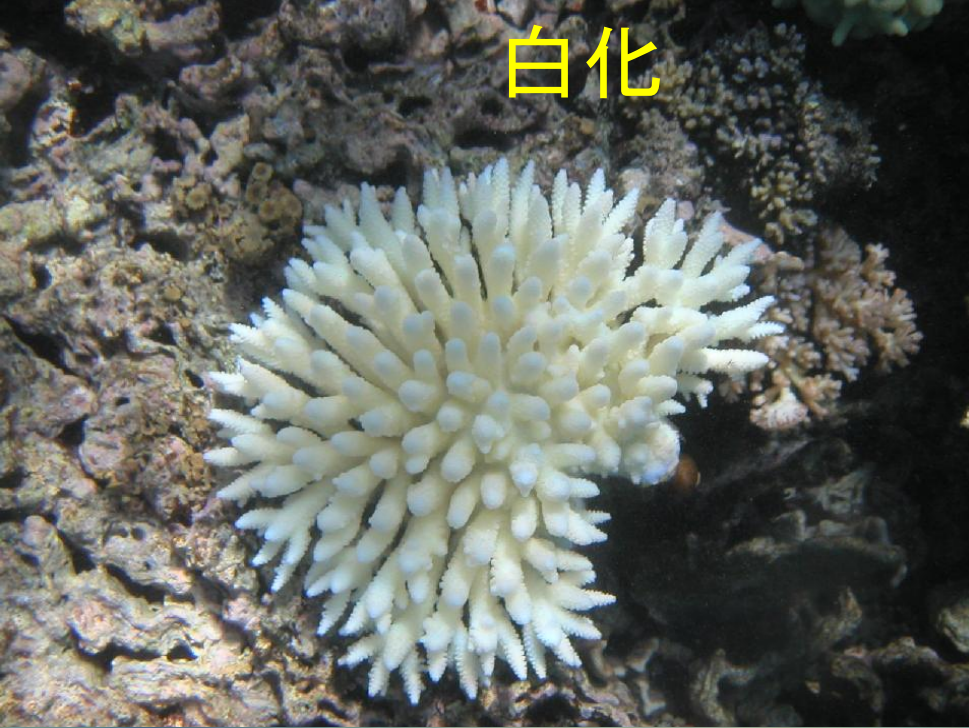


沿岸資源の減少

沖縄市

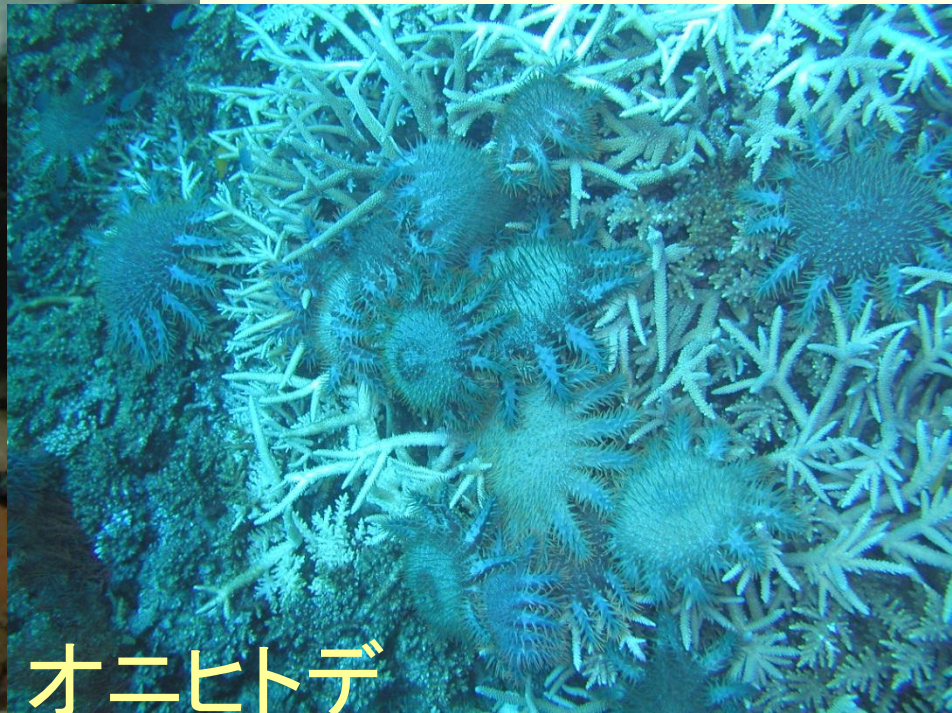


白化



沖縄における サンゴ礁破壊の 3大要因

赤土汚染



オニヒトデ

泡瀬の埋立工事



沖縄市の場合
埋立も重大な要因

サンゴ養殖場の濁り



サバニによる体験漁業





消えつつある
沖縄海洋文化の保存・応用

私たちがまず目をつけたのは
沖縄の「オジー」と呼ばれる世代の大先輩漁師たち。

彼等の多くは幼い頃に網元に売られ、
平均60年以上の漁業経験を持っています。

同時に彼等は、今では姿を消した帆かけ船や素もぐりといった、
自然により密接な形での航海術や漁法の経験者でもあります。

私たちはその経験の中にも、
沢山のヒントが隠されていると思っています。

残念なことに、引退する方が増え、
亡くられる方も少なくありません。
彼等の知恵や経験を集め、実際にそれらを試行、体得することで、
未来の漁業につながる何かを感じ、探り出せると考えます。

また、多くの人がそれらの情報に触れられるよう、
広く発信していきたいと思っています。



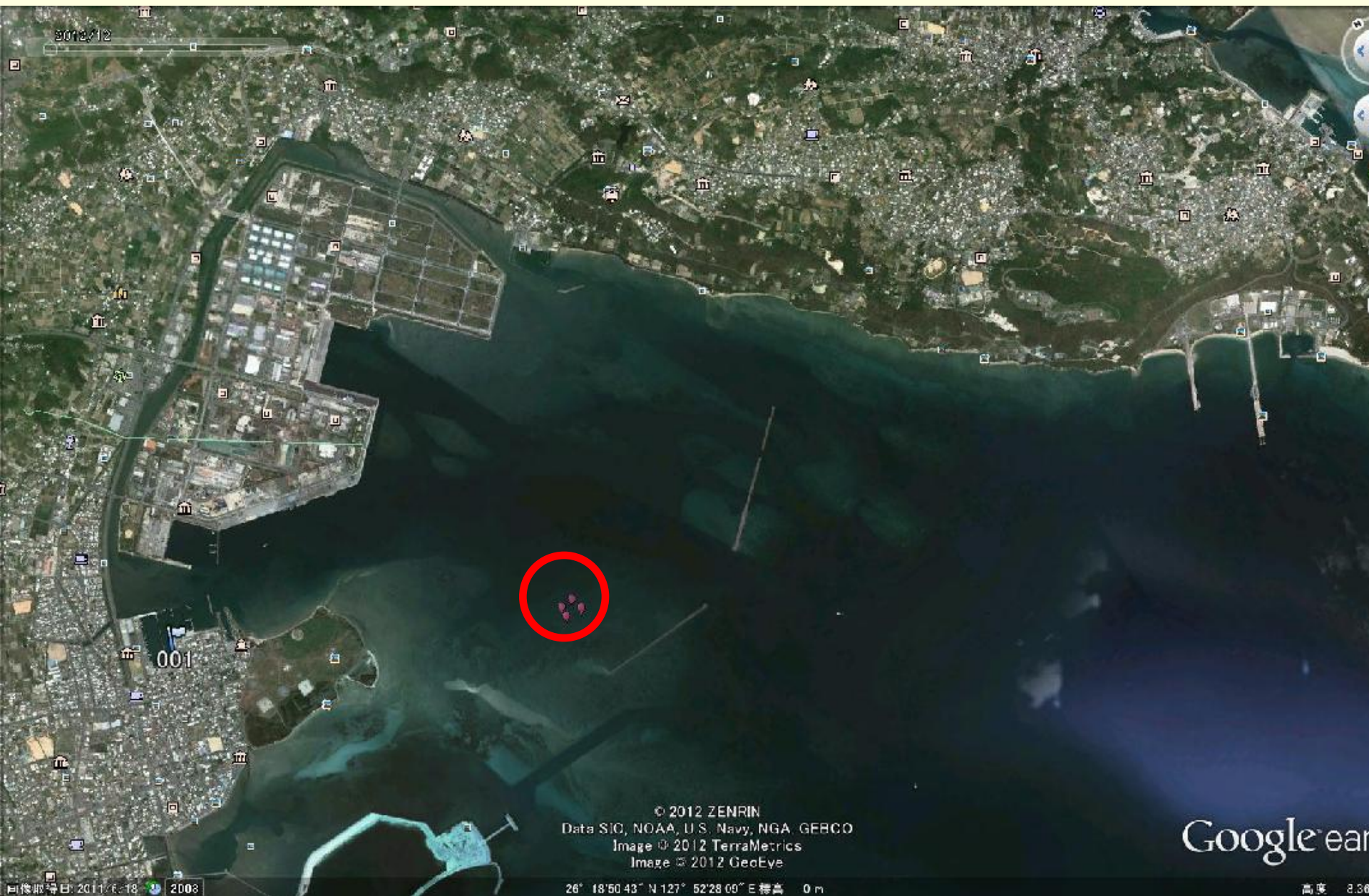
<http://ino-npo.com/>

2) サンゴの養殖と植え付け

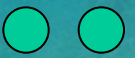
- 県知事より特別採捕許可を受け、サンゴの養殖試験，本養殖を実施
- 沖電開発(株)へ養殖したサンゴを販売
- 琉球銀行「ユイマール助成会」の助成金を受け、養殖されたサンゴ(72群体)を沖合に植え付け
- サウジアラムコのサンゴ礁保全助成事業にサンゴ植え付け事業が採択

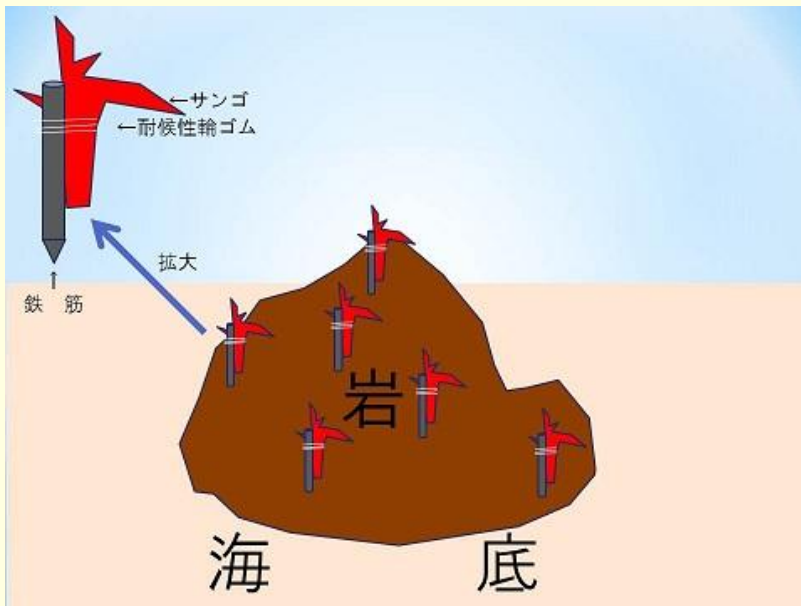


サンゴ養殖場の位置



サンゴ養殖





植え付け模式図

サンゴ植え付け



サウジアラムコ助成による
サンゴ植え付け事業伝達式



サンゴ植え付け作業と植え付け後の状況



鉄筋式植え付け法(60株)

水中ボンド式植え付け法(12株)



3) 子供たちに沖縄の海を伝える

- 子供や若者たちに、海とのふれあいを提供
- コザ中学校の生徒3人の漁業体験に協力
- うるま市高江洲小学校5年生の社会科の授業にて、育てる漁業の講義
- 沖縄開発の環境教育イベントにて漁業とサンゴ養殖講義
- 兵庫県の雲雀丘中学校の生徒に、海洋環境の講話と泡瀬干潟のフィールドワーク



4) 海洋調査

- 地先の海を知り尽くし、地先の海で生活してきた漁業者が「地先の海洋調査に参加」
- このことで海を休ませることになれば、乱獲の現状を改善する資源管理にもつながる
- ホワイビーチ(軍港)における海中施設の点検、修繕作業を合計3回実施
- 海邦銀行「かいぎん環境貢献基金」で泡瀬沖防波堤の漂着ごみ、海中の放置釣糸の現状調査
- 筑波大学の先生と大学院生の中城湾調査に協力

5) 海洋環境の改善

- かいぎん環境貢献基金の助成金で「泡瀬沖防波堤清掃事業」を実施
- 同「中城湾放置モズク網撤去事業」で海域に放置された約4トンのモズク網を撤去



放置モズク網撤去



5. 取組の効果

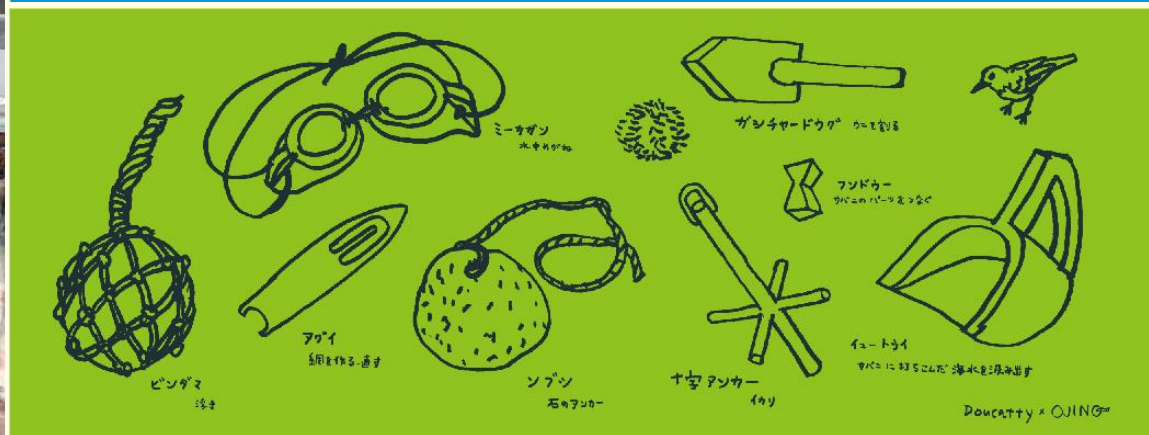
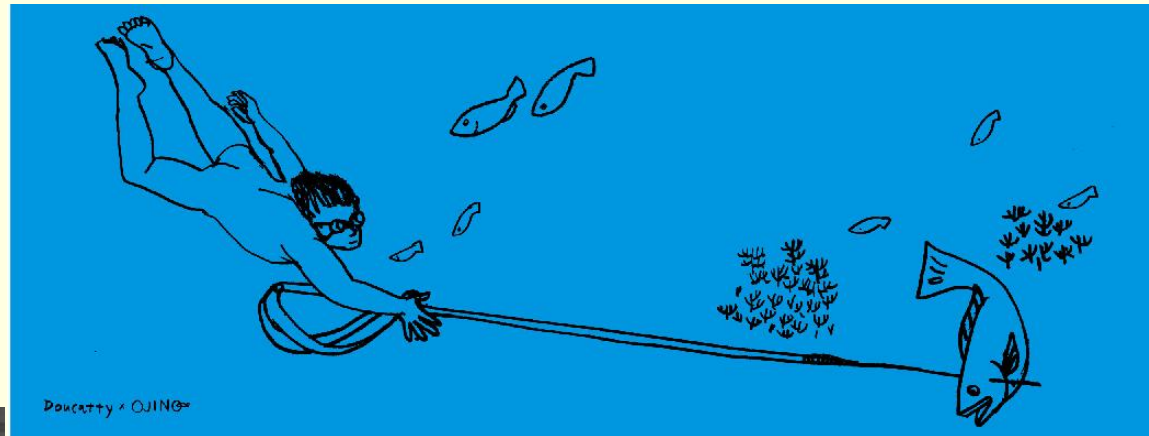
- NPO法人の取組はまだ始まったばかりだが、陸の仕事が苦手な年配の漁業者に、サンゴの植え付け等、少しずつ海に関係した仕事を提供（日当など160万円）
- また、地元のシンクタンクやホテル等も活動に関心をもっており、活動の輪が広がりにつつある。
- 私個人としても、植え付け用サンゴを販売することで、ようやくサンゴ養殖から100万円以上の収入を得ることが出来るようになった。

養殖サンゴ販売実績(2012年)

単位:円

年月日	売り先	サンゴ・数量	数量	売上額
2月2日	株式会社0	オヤユビミドリイシ	2.3	84,800
		ホソエダミドリイシ (紫)	2	
		ホソエダミドリイシ (黄)	2.1	
		ヒメマツミドリイシ (太)	2.2	
		スギノキミドリイシ (青)	2	
2月14日	NPO法人C	ヒメマツミドリイシ (太)	2	85,000
		ヒメマツミドリイシ (細)	2.5	
		オヤユビミドリイシ	2	
		ショウガサンゴ	2	
3月28日	NPO法人I	オヤユビミドリイシ	12	120,000
7月12日	株式会社0	ホソエダミドリイシ (黄)	19	951,000
		ショウガサンゴ	9	
		オヤユビミドリイシ	20	
		スギノキミドリイシ	5	
		ホソエダミドリイシ (紫)	10	
		ヒメマツミドリイシ (太)	10	
9月25日	株式会社0	スギノキミドリイシ (青)	19	414,000
		ホソエダミドリイシ (紫)	8.6	
		計	131.7	1,654,800

ティーサージ (手ぬぐい)づくり



6. 今後の課題

1) 陸域対策:

下水対策やグリーンベルト等の赤土対策

2) 資源調査:

沖縄県水産海洋研究センターと連携し、漁業者が資源調査に直接関わる(潜り部会設立)。

3) 収入安定:

古いサバニを活用し、老齢漁師らと観光漁業等に活用する。

6. 今後の課題(つづき)

4) 助成金依存からの脱却:

活動趣旨とリンクする収益事業を増やし、経済的自立をめざす。

5) 認定NPO:

賛助会員や寄付を募集し、認定NPOをめざす。

6) 漁師会員増員:

漁師会員の特別枠を設け、広く漁師に活動への賛同参加を促す。